

加工用サツマイモ有望系統「関東146号」の特性

カロテン系の「関東146号」は、「ベニハヤト」に比べて多収で、つる割病に強く、切干歩合が高く、チップ等の油加工に適する

背景・目的

- ・サツマイモは本県畑作の基幹作物で、原料用・青果用・加工用等用途別の品種が必要
- ・加工用は、ダイス、油加工、ペースト、色素など利用法が多様であり、利用法に応じた特有の形質が必要
- ・橙肉色の油加工に適したカロテン含有品種がないことから、油加工に適する乾物率が高い品種が必要

成果の内容



関東146号

【特性】

- 上いも収量：「ベニハヤト」より多い
- 1個重：「ベニハヤト」より重い
- 切干歩合：「ベニハヤト」より高い
- 萌芽性：「ベニハヤト」より良い
- 種いもの貯蔵性が良い(腐れにくい)
- つる割病抵抗性：「やや強」

表 「関東146号」および「ベニハヤト」の収量特性、塊根特性、病虫害抵抗性

品種・系統名	4月移植(黒マルチ栽培)			5月移植(裸地栽培)			萌芽性	貯蔵性	つる割病抵抗性
	上いも収量(kg/a)	1個重(g)	切干歩合(%)	上いも収量(kg/a)	1個重(g)	切干歩合(%)			
関東146号	276	190	34.5	352	199	32.1	やや良	やや易	やや強
ベニハヤト	147	119	30.2	178	157	27.8	中	中	—

注1) 4月移植は栽培期間約120日、5月移植は栽培期間約150日

2) 萌芽性: 関東146号は育成地調べ、ベニハヤトは農作物奨励品種特性表

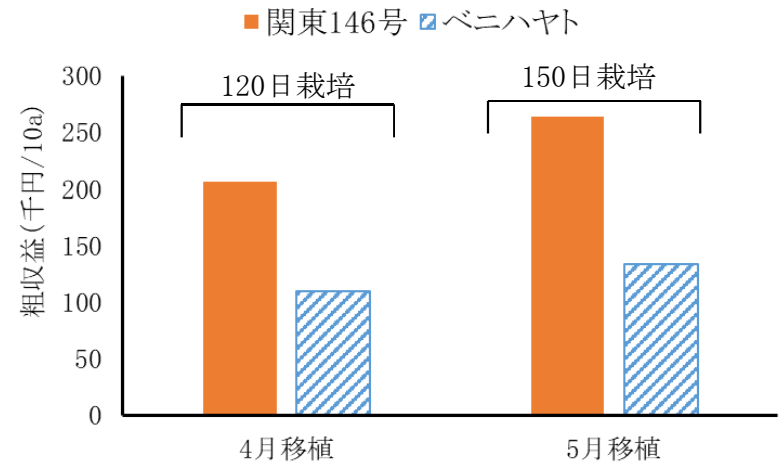
3) 貯蔵性・病虫害抵抗性: 育成地情報

4) 土壌条件: 厚層多腐植質黒ボク土壌、施肥量: N:P:K=0.4:1.2:1.2(kg/a)

(農研機構 次世代作物開発研究センター育成)

導入メリット

○ 粗収益は「ベニハヤト」に比べ約1.5~2倍アップ



注1) 収量は平成29年~令和元年の3か年平均

2) 4月移植は黒マルチ栽培で生育期間120日、

5月移植は無マルチ栽培で生育期間150日

3) 販売単価を75円/kgとして算出

図 「関東146号」と「ベニハヤト」の移植時期別粗収益

・生産が安定し、収益を確保

期待される効果

サツマイモ生産農家の生産性向上と経営安定

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場(共同研究:大隅加工技術研究センター)

普及対象・範囲 サツマイモの生産者

(イノベーション創出強化研究推進事業)